

シリーズ (その4)

## 分別のその先は？

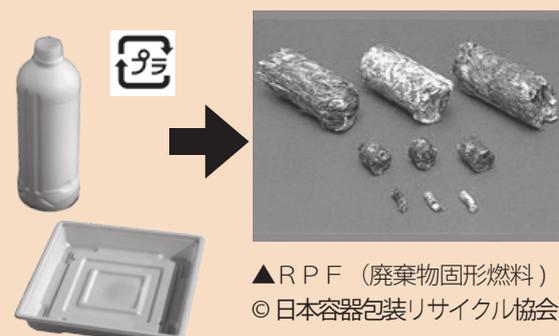
分別収集された資源物はリサイクルされます

ご家庭で分別していただいた「ごみ」がどのようにリサイクルされているか、シリーズで紹介しています。

今月は **プラスチック類** です。

石油から作られるプラスチックは、軽く、耐久性に優れ、いろいろな形状に加工できるなどの優れた性質を持ち、食品の包装、日用品、玩具などさまざまな用途で使用されています。

市ではプラスチック類をRPFという固形燃料としてサーマルリサイクル（エネルギー回収）しています。ごみで出されたプラスチック類は、リサイクル工場では選別・破碎され、木や紙と混ぜてRPFを製造します。RPFは廃プラスチックを使用しているため熱量が高く、配合を変えることで多様な用途に使用でき、石炭およびコークスなど化石燃料の代替品として、多くの産業で使用されています。



▲RPF（廃棄物固形燃料）  
©日本容器包装リサイクル協会

※RPFから得る熱エネルギーを利用することもリサイクルの一つとなります。

### プラスチック類のその先は・・・

**RPF（廃棄物固形燃料）** になります。

#### 分別のポイント

プラスチックを洗浄していただくことで、リサイクル率（再生利用率）が高く、保管にも適した高品質な燃料が製造できます。

問い合わせ 環境政策課 ☎23-3101



『加納莞菴従軍時代の手帳』今回初めて内容を特別展で展示しました。©加納莞菴

特別展の展示資料の中でも注目されたのが、加納莞菴が従軍画家時代に持ち続けた手帳です。一年間の出来事を記録したのですが、従軍画家の生活が細かくわかる、貴重な史料です。走り書きで書かれた文字の判読は難しかったのですが、今年6月、専門家により内容が解読されました。

## 手帳が伝える従軍画家の仕事

安中市加納美術館だより

☎36-0880



『風陵渡高地占領』（1944年東京国立近代美術館蔵アメリカ合衆国から無期限貸与作品）。©加納莞菴

命の危険も感じながらの従軍生活であったことやスケッチを描いたり、資料写真を撮ったり、軍人に話を聞いたりして、絵の素材を収集したことなどが分かりました。

前線で戦争のむごさに直面したことが、戦後、莞菴を平和運動へかり立てた理由の一つかも知れません。

莞菴の活動には、まだ明らかになっていないことや、埋もれたままの作品もあると考えています。

当館はこれからも作品や資料を探しながら、加納莞菴の考えや業績を明らかにしていきます。



※美術館の様子を加納美術館公式フェイスブック（FB）で公開しています。

